

富山県における人口変化(現在と2050年後の予想)

少子化・働き手年齢・高齢化について厚生労働省の人口問題研究所発表より☞考察

| 年次 | 総人口 | 若年代 | 働き手年代 | 高齢者年代 |
|-------------|-----------|---------|---------|---------|
| | | 15歳未満 | 15～64歳 | 65歳以上 |
| 昭和40年 1965 | 1,025,500 | 246,300 | 709,700 | 69,500 |
| 昭和45年 1970 | 1,029,700 | 229,700 | 716,800 | 83,200 |
| 昭和50年 1950 | 1,070,800 | 246,400 | 723,000 | 101,300 |
| 昭和55年 1980 | 1,103,500 | 249,900 | 730,100 | 123,400 |
| 昭和60年 1985 | 1,118,400 | 234,000 | 740,700 | 143,600 |
| 平成2年 1990 | 1,120,100 | 195,600 | 754,100 | 168,900 |
| 平成7年 1995 | 1,123,100 | 170,000 | 751,600 | 201,300 |
| 平成12年 2000 | 1,120,900 | 157,200 | 730,500 | 232,700 |
| 平成17年 2005 | 1,111,700 | 149,500 | 702,900 | 258,300 |
| 平成22年 2010 | 1,093,200 | 141,900 | 662,100 | 285,100 |
| 平成27年 2015 | 1,070,070 | 132,900 | 616,100 | 316,900 |
| 令和2年 2020 | 1,034,800 | 115,200 | 568,100 | 333,000 |
| 令和5年 2023 | 1,006,400 | 107,500 | 551,600 | 328,700 |
| ピーク年☞R5の変化率 | 90% | 43% | 73% | 99% |

【 働き手人口推移 2020☞2050 25年後の富山県人口 】

| | | | | |
|---------------|-----------|---------|---------|---------|
| ピーク年人口 | 1,123,100 | 249,900 | 754,100 | 333,000 |
| 2020年人口 | 1,035,000 | 115,200 | 581,617 | 333,000 |
| 2050年人口の想定 | 762,000 | 69,000 | 337,000 | 356,000 |
| ピーク年☞2050 変化 | 67.8% | 27.6% | 44.7% | 106.9% |
| 2020 ☞2050 変化 | 73.6% | 59.9% | 57.9% | 107.0% |

【 考察 】

- ① 全国の都市部を除く全ての都道府県人口は、著しく減少し富山県においても25年後には人口がピーク時の67.8%に減少。
- ② 64歳未満の人口減少(ピーク時の58.2%に)は、経済、商工業、教育、社会や地域や芸能文化ほか 全てにおいて生産力・購買力・各種活動などが著しく衰退されると思われる。
- ③ スポーツ界では、プロやアマチュア問わず選手・応援・観戦者などにおいても変化する。また近年、スポーツチャンバラ、スケボー、スノーボード、マウンテンバイク、雪合戦ほか競技が多数増え、なんと『eスポーツ:エレクトロニックスポーツ』が世界的に普及しIOCではオリンピックの検討をしているとか？ 現在日本では約200も競技種目があるそうだ。
- ④ 明日を担う学生においては、少子化の拍車に 塾、趣味の多様化、無趣味化、個人行動など今までの異なる状況、また教育現場において働き方改革が進み、科学文部省では学統廃合、学校単位の部活動から枠を越えた地域型スポーツ移行を奨励している。
- ⑤ 65歳以上の高齢者人口は、過去ピーク時より107%となり『 高齢化時代に突入 』。
- ⑥ 私たちは、これらのデータより 人口減少や社会生活の未来を予測し これから戦略的、積極的、継続的に進めて行きましょう！